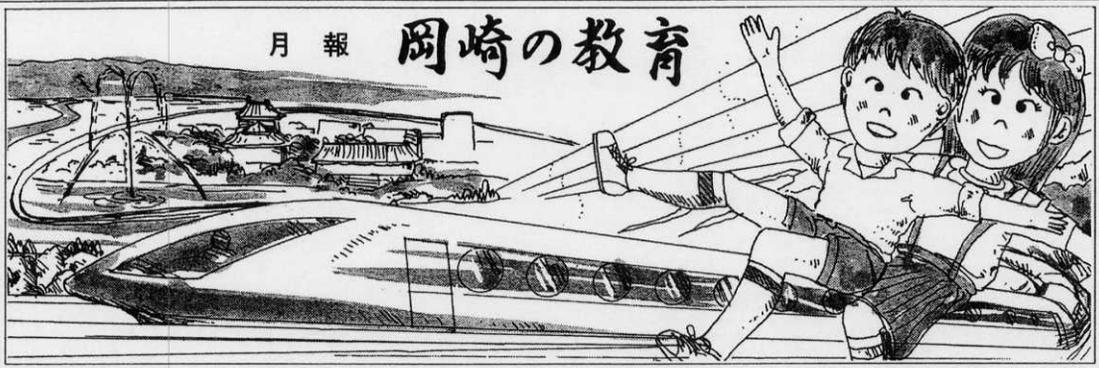


月報 岡崎の教育



5月号

平成元年5月1日
発行/編集
岡崎市教育委員会

校庭の桜の花びらが一枚
そっと風に運ばれて
教室の窓ガラスに着いた

春

北中は二年目を迎える
子等の笑顔と歓声は
ここかしこにあふれ
心は嬉々と躍動している

磨く 磨く 一心に
ジャージのすそをたぐり上げ
デッキブラシを持つ手に力を込める
白い陶器に自分の顔が見えた時
その驚きは最上の喜びとなる
磨く 磨く 心を磨く
世の中に
これほど美しい行為があろうか
その心を誇りとせよ

北中の新たな出発が
今 始まった

(新たな出発)



(磨く—北中)

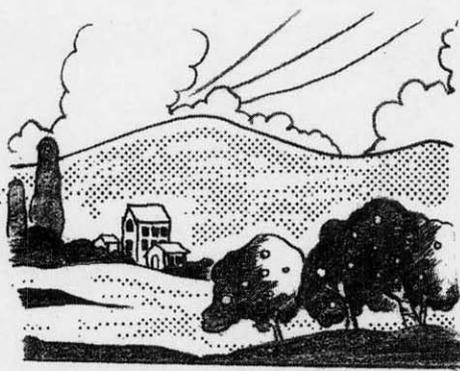
五月は、年間を通じて最もさわやかに感じる季節です。これは、気圧配置からみると、移動性高気圧に覆われる頻度が高くなるからです。

移動性高気圧は、冬季の極から張り出す寒く冷たいシベリア高気圧とは異なり、上層の中緯度偏西風の波動によって発生する沈降性の空気塊ですから、暖かくて乾燥しています。また、その規模は千五百から二千キロメートルの大きさで、時

— 教育随想 —

五月晴れ

大和田 道雄



すが、これは、この時期の天気が良いからとの理由だけでなく、体感的にもスポーツに適しているからです。人間の体は皮膚からの熱の発散で体温の調節をしていますので、乾燥した大気のもとではそれが容易です。しかし、高湿な状態では調節が思うにまかせず、暑苦しく感じます。不快指数の計算に湿球温度を組み入れるのはそのためです。

速約二十〜三十キロメートルの速度で西から東へ移動しています。このため、日本列島に接近してから通過するまでに約三日かかります。したがって、この間は穏やかな晴天が続くわけです。

移動性高気圧の年間を通しての出現頻度は、五月と十月が最も多く、次いで四月の順になります。大体、この時期は運動会やスポーツ大会が多く開催されま

に順延になることも多くあります。これは、五月とは言え、移動性高気圧の後面には気圧の谷が近づいてくるからです。気圧の谷は移動速度が速く、一日で過ぎ去ってしまいます。したがって、この季節は、三日間晴れて一日雨の周期を繰り返します。もし、運動会が雨で中止になった場合には、三〜四日後の再開は避けなければなりません。

また、晴れた日に注意しなければならぬことがあります。それは、五月が年間を通じて最も日射量が豊富だからです。日差しが強く、ひなたでの長時間の運動は、日射病に気をつけなければなりません。ちなみに、この季節の体感指数を調べてみると、ひなたは真夏に近い暑さです。しかし、建物の陰等は寒い位で、丁度、木漏れ日の木陰が最も快適環境です。

さらにこの季節は、ブドウ球菌による食中毒が多く発生します。食中毒の発生原因で良く知られているのは、サシミ等の生鮮食料品に多い腸炎ビブリオ菌です。これは、夏に多いのですが、ブドウ球菌は春と秋に集中して中毒被害をもたらします。おにぎりやおはぎが原因です。五月とは言え、炎天下の自動車内温度は、四十五度を上回りますので、密閉車内に食料品を置いたままでは危険です。

それにしても、五月晴れに泳ぐ鯉のぼりは、さわやかさを象徴しています。鯉のぼりが一番美しく泳ぐ風は四〜五メートル毎秒位です。口から沢山の風をお腹に吸い込んで空気密度を高め、口より小さい尾の部分からジェット気流のような強い風を勢いよく吹き出して泳ぎます。ですから、鯉のぼりは、お腹が大きい程良く泳ぎます。太つ鯉な人とは良く言ったものです。私も、鯉のぼりに負けないような太つ腹な人間になりたいと願う昨今です。

(愛知教育大学教授)

羅針盤



遊びを通して学ぶ

理科指導員

菅 沼 剛

二年「音を出してみよう」の授業である。前時までに各自で作った自分の草笛を曲に合わせて鳴らしている。子どもたちの真剣な目、自然に体がリズムにのって動いている。表情も実に豊かである。次に自分の草笛について発表する。

「大きな音がするよ。」

「こうするとよく鳴るよ。」

「こうやって作るんだよ。」

順番に発表する子どもたち。二年生の子なりに、自分で工夫した点を発表している。

先生がアシ笛を紹介する。先生の演説に見入る子供たちの目は、アシ笛に集中する。何だ、簡単にできそうだが、はやくやりたいという子。自分でも鳴らせるかなという不安そうな子。

どっさり用意されたアシが配られる。思い思いに鳴らす。うまく鳴る子、なかなかうまくいかない子もいる。はやくできた子が、そのこつを教えている。

ふるさとシリーズ

この人に聞く



小型映画

舟橋英哉氏

岡崎小型映画協会の協会長をしてみえる舟橋英哉氏を、松橋町にお訪ねした。

氏は、工学博士であり、日本エヌテルを退職された後、名古屋栄養短期大学の教授に懇望され、現在も週に一度は教壇に立たれている。

氏が、八ミリ映画に関心をもつようになったのは古く戦前にさかのぼる。奥様の御父君がヨーロッパから持ち帰られた、コダックの通称「弁当箱」を借りてお子さんや社内旅行の様子を撮影されているうちに、その魅力に取り付かれてしまったようである。

「本格的に始めたのは、昭和三十三年東京で、全国的な組織である『小型映画

友の会』世田谷支部に入ってからです。初めから少し計画を立てて作り始めました。セミプロの脇田さんという方がいて指導を受けているうちに病みつきになりました。三十年頃は、日本で八ミリの機械ができた草分けの頃でした。

昭和四十二年、お仕事の関係で岡崎へ居を移され、翌年岡崎小型映画協会へ入会、五十三年から協会長を務められています。当時は五十名を数えた会員も、趣味の多様化、ビデオの普及などの理由により、現在は十五、六名ほどになってしまったそうである。しかし、八ミリでなくてはという人ばかりで、毎月例会を開いて批評し合ったり、年に一度は一般の人にも公開する映写会を開いたりしてみえるとのこと。ビデオを好きになれない理由として、次の点を挙げられた。

「大画面でやるのが難しいということ、我々は切ったり張ったりしないときになりちゃんとした作品にできない。ビデオは編集するのにコピーしなければいけませんから。」

きれいな画面、一コマ一コマが一つの絵になっていることを理想とされる氏ならではの言葉である。長年続けてこれらために最近では撮影テーマのタネが尽きてきたと言われる。そこで、音楽を決めてそれに合ったイメージの風景を撮ったり、「雲」とテーマを決めて撮ったりされている。

クラシック音楽しかだめと言われる氏



が、ピアノコンチェルト「黄河」のメロディーに乗せて撮影された「サンライズ」という作品を見せて頂いた。伊良湖岬に朝日が昇るに連れて、幾重にも変化していく海や波の表情が、たとえようもないほど美しく映し出され、

「音楽と映像を結び付けることに興味があつた。」
と言われる氏の言葉どおり、見事に音楽とマッチしていた。
「常に新しいものを開拓していきたい。」
という氏の精神は、御専門の高分子化学にも、映画づくりに相通するものとして氏を支えてきているように感じられた。

住 所 岡崎市松橋町三丁目十一の二五
生年月日 明治四十五年二月十七日

全員が共通の経験をする中で、遊びを通し音の出る様子を体でとらえさせた。子どもが、生き生きと活動し、一時間が短く感じられた授業であつた。

競争原理を超えて

特殊教育指導員

鈴木 忍

きょうのA小の授業は、収穫したサツマイモを使って、どのイモが一番長いかまた重いのかという長短・軽重の概念を扱う授業である。農作業を単なる勤労体験学習で終わるのでなく、その中に系統的な学習内容を組み込んでいく。このような授業を特殊教育では生活単元学習とよんでいる。

「どのイモが一番長いでしょう。」
先生のハキハキした問いかけに、B君はあきらかに短いと分かるイモを拾い出して、ニコニコと先生の目の前へさし出す。次のC君もいろいろ比較して選んだのだが、最長のものではなかった。

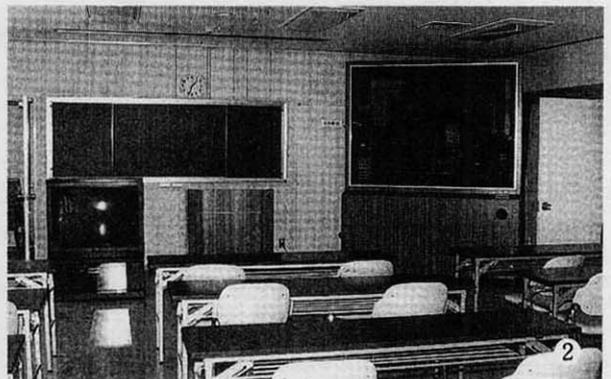
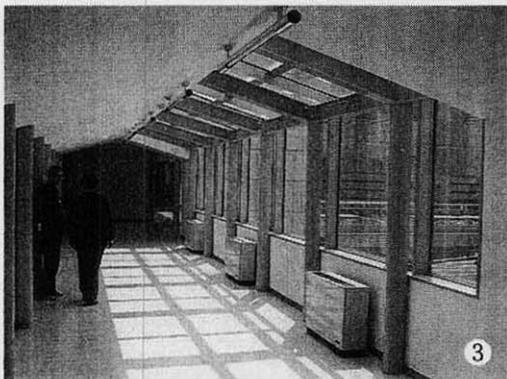
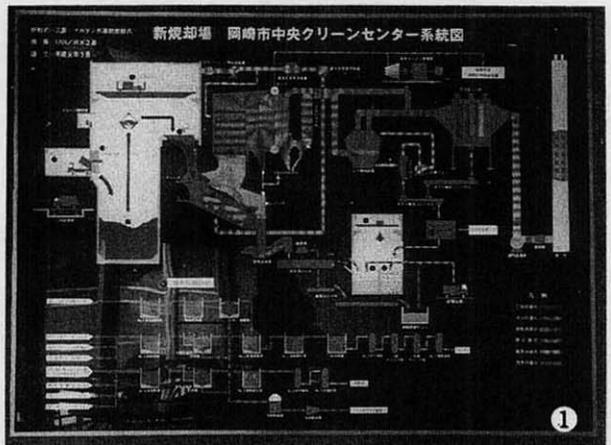
長短の概念はほぼ三歳くらいで身につく。しかし、いくら一生懸命に考えても分からない子もいる。結局D君が最長のイモを見つけてチャンピオンになった。一生懸命にやったのに探せなかった残りの八名の子は、落胆の表情を隠さなかった。この場面をどう処理されるのかなと見ていると、先生の手には九個の手作り金メダルが光った。

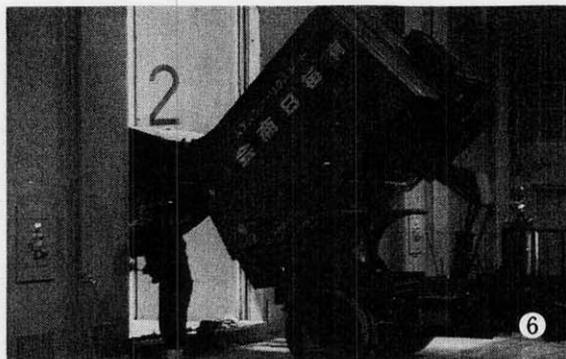
全員の喜びを見た時、競争を超えた奥に、また一つの真実があると実感した。



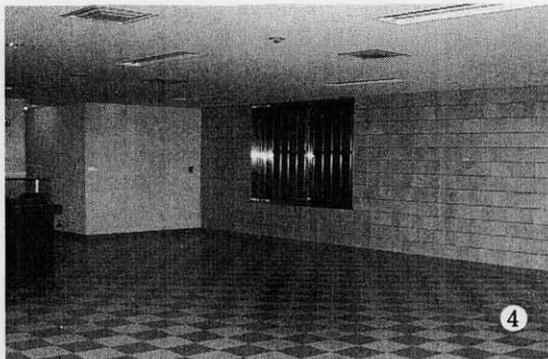
岡崎市中央 クリーン センター

- 高隆寺町の高台に斬新な外観の建物「岡崎市中央クリーンセンター」が完成した。
- 日量百二十トンの焼却炉二基を備え、自動燃焼制御装置、ごみクレーンの遠隔操作装置等が導入された最新鋭施設である。二次公害対策も万全が期されている他、排ガスの余熱を利用して場内の電力を賄ったり、余熱利用施設も検討されている。
- また、単なる焼却工場でなく、小学生等の学習の場としてのスペース、安全対策にも配慮されている。今回は見学者の目から紹介してみたい。
- ① 見学者はまず管理棟研修室に案内される。ここで動画像を使った焼却システムの説明を受ける。
 - ② 研修室は児童なら百名余を収容でき、大型テレビで施設内のモニターカメラの映像が見れる。
 - ③ 市の花、藤色を基調とした冷暖房完備の連絡

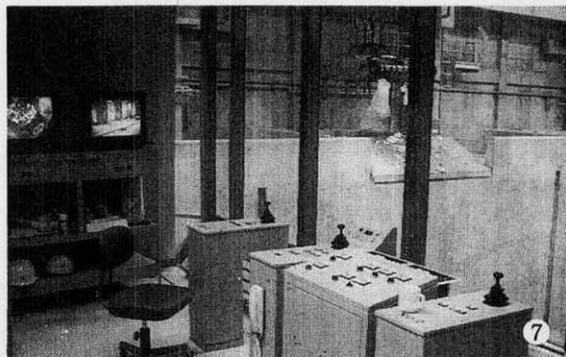




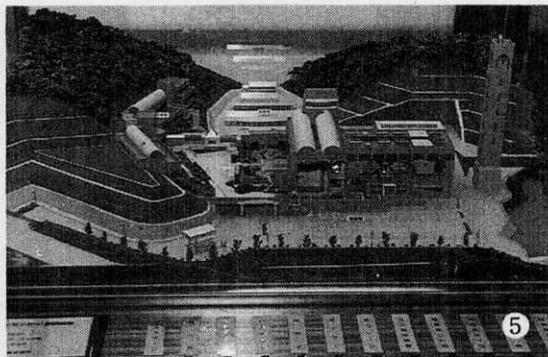
6



4



7



5



8

通路を通して工場棟へ移動する。
 ④ 工場棟の各階には広いロビーがあり、見学者は現場でまわって説明を聞くことができる。
 ⑤ ロビーに設置された工場模型で、立体的にごみ処理の様子を学習できる。
 ⑥ 二階見学窓からは投入ステージに入入りするごみ収集車の様子が安全に見学できる。
 ⑦ ごみクレーン操作室 全自動運転装置を備え、焼却炉に入るごみの量は自動的に計量される。
 ⑧ ごみピット 三千二百立方メートルのごみを貯留できる。くさいにおいは遮断されておかない。
 ⑨ 中央制御室 焼却炉プラントの各種運転情報及管理される。ガラス越しに全体が見学できる。
 ⑩ 焼却されたごみ 燃えない空缶等が多く見られる。燃えるごみと燃えないごみは区別して出すよう、センターから特に要望された。



9



10

Ⅰ君への思い

梅園小 高橋優美子

「先生、ぼく部活の先生に、きのう、しかられたから謝った方がいいよね。許してくれるかな。」

と心配そうにⅠ君が言ったのは三月も終わりのことだった。

一年前の四月、Ⅰ君は、自分の感情のままに行動することが多かった。気分が悪ければ、一方的に友達に八つ当たりする。弱い子や女子に暴力を振るう。注意されれば、にらみ返すという攻撃的な反面、気分のよい時は、とても澄んだ瞳のやさしいⅠ君だった。とは言っても、

「先生、Ⅰ君が女の子のおなか



をけったよ。」

「Ⅰ君が、ニワトリをつついていじめているよ。」

「Ⅰ君をトイレにつれていってたたいているよ。」

などと次々に続く乱暴な行動に、初めは、理由を聞いて論じていた私も、一方的にしかってしまいがちだった。そんな私の気持ちを見抜くかのように、

「先生、でもね、Ⅰ君だって、今日謝っていたよ。」

とⅠ君の声。子どもというのは本当によく見ているものだ。つい感情的になっていた私は、はずかしい思いだった。

「ぼくばかり、いつも注意される。」

と言ったⅠ君。

「だってⅠ君は特に目立つもの。」

と言いかけて口をつくんだ。Ⅰ君を取りまく者たちが、いつもⅠ君を悪者に行っていることはいか。それで、自分の行動を素直に認め反省できないということもあるのではないだろうか。そんな思いをクラスの子どもに話した。

「Ⅰ君、すごくピアノが上手になったよ。」

学芸会で合奏するむずかしい曲もクラスの仲間にもまされて根気よく練習した。

Ⅰ君の良さを素直に認める仲間

の態度に、次第にⅠ君は穏やかになった。友達に注意されたことを、少しずつ受け入れられるようになったのも、Ⅰ君を見つめ込み込む友達の実実のまなざしがあったからだろう。

まだ、初対面の人や、彼をよく知らない人には誤解されやすいⅠ君である。今は、もう私の手から離れた彼を気づかれないように見守っていきたい。

あがったぞ

甲山中 杉田 吉男



いので、作るのに手間のかからない連風を作ることにした。一人一つずつ作り、それをつないで連風にしていく。

風といっても、一つは二十五センチ四方の小さなもので、骨組みも二本だけという簡単なものである。簡単すぎて、生徒はあまりのり気ではなかった。私も、この時の生徒の様子を見て、

風あげ大会は、もりあがらないかもしれないと思った。

ともあれ、一週間後に大会があるということで、実行委員を選出し、活動を開始した。

製作は、スムーズにいき、次々と風ができあがっていく。あまりにもあつてなくてできてしまい、作りあげたという満足感を得た生徒はわずかであった。

そんな時に、生徒の心を動かすきっかけとなる出来事があった。実行委員の生徒が、学級の風を全部点検し、とばない風は直す作業を授業後にやりだした。いっしょうけんめいやつて

いる実行委員の姿を見て、あんなに実行委員がやっているんだから、みんな絶対的に風をあげよう、と考える生徒がでてきたのである。

いよいよ大会当日。風あげの直前に、風に糸がからまってしまった。なげなげな顔を

して、必死に直そうとしている実行委員。しかし、作業はおもうように進まない。作業に一人二人と生徒が加わっていく。大きな輪ができる。皆の協力

で、ついに七組の連風ができた。いよいよだ。「あがるかな。」

「あがつてくれ。」と生徒のつぶやきが聞こえる。三十九人の生徒が、心配そうに風を持ってその時を待つ。「あげるぞ。」の実行委員のかけ声。次の瞬間、三十九人の風は、大空へ舞いあがつていった。「やったあ。」「すごい、すごい。」の歓声。

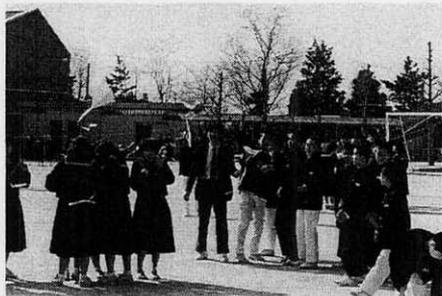
「たかが風、されど風」実行委員のがんばりが、学級の生徒の心を動かした大会。やってよかったと改めて感じた。

直前に、風に糸がからまってしまった。なげなげな顔を

して、必死に直そうとしている実行委員。しかし、作業はおもうように進まない。作業に一人二人と生徒が加わっていく。大きな輪ができる。皆の協力

で、ついに七組の連風ができた。いよいよだ。「あがるかな。」

「あがつてくれ。」と生徒のつぶやきが聞こえる。三十九人の生徒が、心配そうに風を持ってその時を待つ。「あげるぞ。」の実行委員のかけ声。次の瞬間、三十九人の風は、大空へ舞いあがつていった。「やったあ。」「すごい、すごい。」の歓声。





平成元年度

校長会役員

〈小中学校長会〉

会長 太田 清美(葵 中)
副会長 藤井 沈(広幡小)
長坂 一昭(竜海中)
大山 保(根石小)

顧問 (県校長会)

中村 巽(三島小)
柴田 和一(藤川小)
松崎 稔(福岡中)

庶務 杉崎利兵衛(六中小)
勝田 斉(矢北中)

会計 遠山 賢治(六名小)
太田 泰永(美川中)

会計補佐

磯谷 栄一(矢北小)

評議員 都築 泉(六南小)
浅井 勉(常磐小)
長坂 澄(岩津小)
後藤 章(六北小)
山本 昭(矢東小)

〔寄贈刊行物・資料等〕

◆岡崎市小中学校特殊担任者文集
長い目 広い目 こまかな目
現職教育特殊教育部
A5 一三四ページ

◆やる気にさせる英語指導法
山浦 昭雄

◆続ふるさと土地 土地小学校

A5 一八六ページ

◆画集「海の詩」 篠原 正
変形A5 四五ページ

◆今週の読書

五〇〇記念特集号
A5 今週の読書の会

野村 正巳(羽根小)
高橋 岩雄(常南小)
加藤 進(福岡小)
鈴木 聡一(梅園小)
長濱 宏雄(東海中)
荻野 良雄(城北中)
渋谷 環(六美中)
宇佐美利郎(南 中)
野田守司登(甲山中)
杉浦 裕巳(河合中)

平成元年度研究発表表

〇・大門小Ⅱ自らの考えと思いやりをもつて、生き生きと活動する子どもの育成(中間)

〇・上地小Ⅱ学級づくりを基盤とした学習指導

〇・広幡小Ⅱ授業「構造と展開」(意欲ある活動・豊かな表現)

〇・竜南中Ⅱ個を知り、個を育てる授業をめざして(中間)

〇・岡崎小Ⅱ基礎的・基本的事項を重視した学習

〇・矢作東小Ⅱ確かで豊かな表現力を伸ばす作文指導

〇・藤川小Ⅱ自ら学ぶ意欲を育てる感動がある授業の研究

〇・岩津小Ⅱ一人ひとりの自己実現をめざす教育の推進

〇・常磐南小Ⅱ郷土に生きる常

南教育

〇・常磐小Ⅱ物語文を通して豊かに読む(国語)、確かな考え方と意欲を高める(算数)

訪問計画

〇五月二十二日(月) 連尺小学校
〇十月二十三日(月) 新香山中学校
〇十一月十日(金) 大樹寺小学校
北野小学校

平成元年度市教育委員会学校訪問計画(一学期分)

〇五月二十五日(木) 六ツ美中学校
〇六月八日(木) 矢作南小学校
〇六月二十九日(木) 矢作西小学校

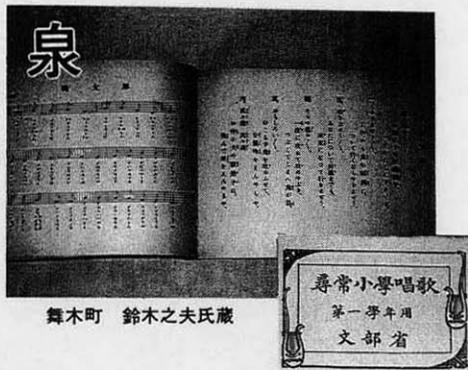
平成元年度月報「岡崎の教育」編集委員

・加藤 進(福岡小)
・千田 水城(連尺小)
・山田真寿美(梅園小)
・名倉 昭人(根石小)
・林 和泉(男川小)
・松井 伸市(岡崎小)
・中山 昌司(六名小)
・酒井 久男(竜美丘小)
・平野 有行(連尺小)
・野々山こず江(井田小)
・長坂 博幸(愛宕小)
・河合 澄江(山中小)
・村上 信良(美川中)
・牧内 映雄(南 中)

体育的部活動指導者

派遣事業発足Ⅱ
・大久保幾三(東海中)
・大村 寛(矢北中)
・山本 光昭(竜南中)
・伊藤 安彦(市教委)
・澤 博史(市教委)

〇・岩津中学校 愛宕小学校



鈴木之夫氏蔵 鈴木町

尋常小学唱歌

明治五年、学制が公布され、小学校の教科として「唱歌」がとり入れられた。

しかし、音楽教材が皆無であったことや、音楽指導のできる教師がいなかったため、有名無実の存在であった。

明治十二年、文部省は音楽取調掛を設置し、東西二洋の音楽を折衷して新曲を作ったり、将来の音楽教育を担う人材の養成に着手した。

明治十四年、「小学唱歌初編」が刊行されたが、教科としての位置づけは「加え得べき教科」

・表紙写真
・表紙詩
・カッ ト

北中 北中
北中 北中
井田小 近藤健一

とされ、全国の小学校で必須科目となったのは明治四十年の小学校令の改正で修業年限が六年に延長されてからである。写真の教科書は明治四十四年発刊の国定教科書である。音そのものから直接に情緒を感じとらせる芸術としての音楽より、歌詞による道德教育としての役割が強かった。とは言え、苦心して作られた歌の中には「かたつむり」「風の歌」「月」など今もって子供たちに親しまれている歌が多いのも興味深い事実である。

この本を

- * 修身教授録 森 信三 ¥2000
竹井出版
- * 昭和原人 諸井 薫 ¥1000
文藝春秋社
- * 教師 宮沢賢治のしごと 畑山 博 ¥980
小学館
- * この国は恐ろしい国—もう一つの老後— 関千恵子 ¥1300
農山漁村文化協会

※最新医学の現場 柳田邦男 ¥1200
新潮社

科学技術のめざましい発展は、医学をも発展させた。治療が不可能とされた難病も、最新の医療技術によってその患者が救われている。

著者は、こうした医療治療に取り組む医師たちの姿を、長年にわたって、しかもいくつもの現場で取材し、その感動の数々をまとめている。

診断法や治療法のいっそうの進歩を求めて、地道な研究に取り組む臨床医の苦闘は、読む者の心を打つ。

オアシス

音楽教育制度のルーツは大正律令にある。音楽史には、中国を中心とする東洋諸国や西洋の文化としての音楽を移入する一方で、日本独特の文化を創り出していった先人の苦勞とエネルギーが凝集されている。今、新しい文化の創造が期待される時、子供たちの創造意欲をいかにして育てるかが課題。

消費税が実施され、子供たちの世界にもその波紋が広がっている。ノートを買っても本を買っても三パーセントが上乗せされる。遠足のおやつも消費税のために一品減ったとか。財布の中身と相談しながら買い物をする子供たち。税について生きた勉強をしているというには、あまりにも厳しい現実だ。

「開いた口がふさがらない。」近ごろ、子供との話の中で、こんな思いをすることが少なくない。当の子供は「どこがおかしい。」と涼しい顔。育つた時代による価値観の差をつくづく感じさせられる。時代の流れに沿った教育は必要であるが、流されてはいけないことも見極めていきたい。

澄み切った青空に楠の若葉が輝く。岡崎市は、全国住み良い町の上にランクされている。

気候、産業、交通等の条件の他、街中のどこからでも緑が眺められる潤いのある町が魅力という。各校とも緑を大切にしている教育に力を入れている。他人まかせでなく自ら育てる心を大切にしたい。